

@ ;

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年 国語 128人 算数 128人 理科 128人

第5学年 国語 114人 算数 114人 理科 114人

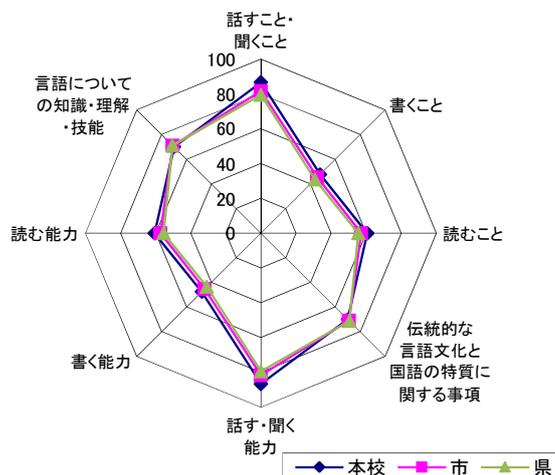
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	86.6	81.6	79.4
	書くこと	47.6	45.4	43.6
	読むこと	60.6	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.1	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	86.6	81.6	79.4
	書く能力	47.6	45.4	43.6
	読む能力	60.6	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	70.1	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

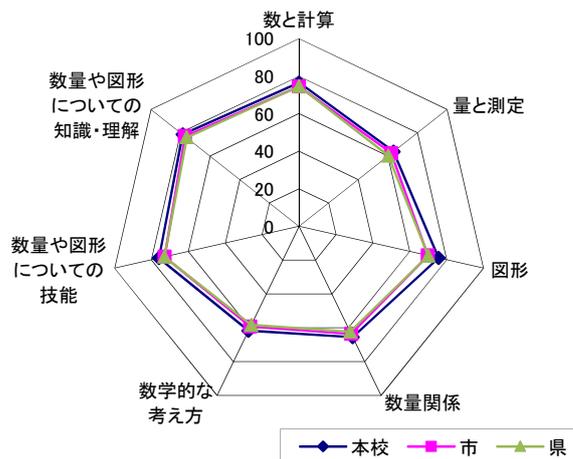
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話し合いにおいて司会者の役割を理解し発表を整理する問題では、県よりも8.3、市よりも4.9ポイント上回っている。</p> <p>●話し合いにおいて司会者の役割を理解し発言を整理する問題では、市や県よりもポイントは上回っているが、上位層と下位層の幅が大きい。</p>	<p>・選択式問題での正答率は高かったが、自分の意見を述べる問題は正答率が低く、無回答も10.5%と高い。今後は相手の意見を聞いて整理したうえで、自分の意見を簡潔に述べる練習を普段の話合いの中で積ませていく。</p>
書くこと	<p>○報告レポートの作成において、選択問題の平均正答率は79%であり、市よりも6.7、県よりも9.1ポイント上回った。</p> <p>●報告レポートを書くという記述問題においては、平均正答率が34.7%と非常に低い。</p>	<p>・国語の授業だけでなく、話合いや朝会の時など、話を聞いて要点を簡潔に述べる機会を継続して持たせていく。</p>
読むこと	<p>○文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する問題では、市よりも9.8、県よりも13.5ポイント上回った。</p> <p>●文章を読んで感じたことや考えたことを発表する問題において、平均正答率が市よりも1.4、県よりも1.1ポイント低い。</p>	<p>・説明文において、段落ごとに要点を細かく読み取る活動を継続的に行い、経験を積ませていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の読み問題では、3問中2問において平均正答率が約80%と高い。</p> <p>●漢字の読み問題では「平等(びょうどう)」という漢字の平均正答率が36.3%と低く、市よりも6.8ポイント下回った。</p> <p>また、ローマ字を選ぶ問題においては、正答率が40.3%であり、市よりも4.3ポイント下回った。</p>	<p>・漢字の練習をする際に、言葉の意味を捉えたり、読み替えの漢字を随時教えたりすることで定着を図っていく。また、今後も引き続き漢字のミニテストを定期的に行っていく。</p> <p>・ローマ字については、学習後も児童の印象に残るよう目に触れる場所に掲示したり、書かせたりすることで、定着を図っていく。</p>

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.6	74.5	74.6
	量と測定	63.9	62.4	60.4
	図形	75.6	69.9	70.1
	数量関係	65.5	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	61.7	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	76.0	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	78.7	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

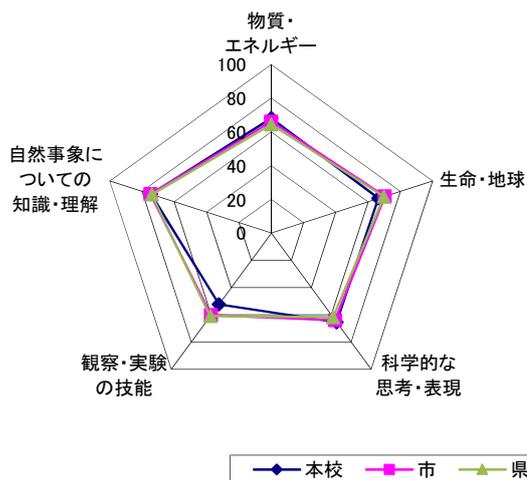
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○計算の順序に合うように、()を書き入れる問題では、正答率が79.8%で、県の正答率を9.2ポイント上回った。</p> <p>●基準量よりも比較量の方が大きい場面で何倍かを求めるでは、正答率が71%で、県の正答率を2.5ポイント下回った。</p>	<p>・数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすることができるようにする。</p>
量と測定	<p>○はかりが示す重さを読み取り、みかんの重さを求めるでは、正答率が62.9%で、県の正答率を8ポイント上回った。</p> <p>●木の幹の周りの長さを測るのに適した道具を選ぶでは、正答率が84.7%で、県の正答率を1.6ポイント下回った。</p>	<p>・長さなどの学習では、具体物の活用や、生活の中の場面を想起させることで、測定するものの形状や大きさをもとに適切な測定器具を選択できる力をつける。</p> <p>・実際にいろいろな物を測り、経験を積ませる。</p>
図形	<p>○与えられた1辺の続きをかいて正三角形を完成させるでは、正答率が86.3%で、県の正答率を12.5ポイント上回った。</p> <p>●箱に入った同じ大きさのボールの半径の長さを選ぶでは、県の正答率を6.2ポイント上回っているが、正答率が58.1%であった。</p>	<p>・立体図形の長さや高さを求める場合、その立体を真横から見た様子を平面図に表して平面図形に置き換えて考えられるように指導する。</p>
数量関係	<p>○未知の数量を口として、数量関係を表した線分図を選ぶでは、正答率が87.9%で、県の正答率を4.2ポイント上回った。</p> <p>●棒の高さが同じでも表す人数は異なることを説明するでは、県の正答率を4.3ポイント上回っているが、正答率が35.5%であった。</p>	<p>・1目盛りの大きさが異なるグラフを読み、1めもりの大きさに着目することの大切さを十分に意識づける。</p> <p>・考えたことを言葉や数を使って書くことを日常的に行い、慣れさせる。</p>

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.1	66.1	64.4
	生命・地球	66.4	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	65.5	64.1	61.9
	観察・実験の技能	52.4	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	74.5	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	<p>○天秤がつり合うことから、ものの重さを推測する設問では、県の平均正答率を9.4ポイント上回った。</p> <p>○物の形と重さや体積と重さの関係がわかる設問では、県の平均正答率を10.4ポイント上回った。</p> <p>○豆電球のつなぎ方から箱の中の回路の様子を推測する設問では、県の平均正答率を7.8ポイント上回った。</p> <p>●方位磁針の適切な操作方法がわかる設問では、県の平均正答率を11.4ポイント下回った。</p> <p>●1つの豆電球と乾電池を使いあかりがつく回路を選ぶ設問では、県の平均正答率を5.6ポイント下回った。</p>	<p>・方位磁針の操作については、他教科でも使用することができるので、その都度おさえていきたい。</p> <p>・電流は+から-に流れるという性質を、改めておさえておきたい。</p>
生命・地球	<p>○昆虫の体の色とすみかとの関係について考察する設問では、県の平均正答率を11.7ポイント上回った。</p> <p>●虫眼鏡の適切な使い方が分かる設問では、県の平均正答率を20.5ポイント下回った。</p> <p>●記録から日なたの温度計を選び、その理由を説明する設問では、県の平均正答率を7.1ポイント下回った。</p>	<p>・昆虫の体の色とすみかとの関係では、なぜそこに住んでいるのかを考えさせた結果、根拠をもとに考えることができたので、今後も自然の観察を通して、繰り返し指導していきたい。</p> <p>・野外での観察の経験を多く積ませ、観察の方法だけではなく、用具の使い方を明確にして徹底を図る。</p>

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている」の質問では、県や市の肯定的回答の割合を上回っている。このことから、家庭学習の習慣が身についていることが伺える。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは辞書を使って調べている」の質問では、県や市の肯定的回答の割合を下回っている。4年生になってから学校園の取り組みとして、校内での辞書活用を進めているので、今後は家庭学習にも辞書活用を推奨していきたい。

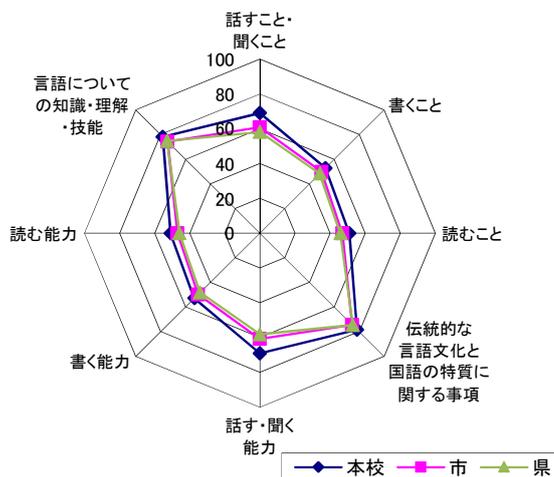
●「自然や宇宙など科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」「理科は好きですか」の質問では、県や市の肯定的回答の割合を下回っている。授業の中で実験や観察などの体験活動を増やすことによって、児童の理科に対する興味・関心・意欲を高めていきたい。また、理科の授業の進め方において、予想⇒実験⇒結果⇒まとめの流れを定着させることによって、自ら意欲的に学習に取り組めるようにしていきたい。

●「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「クラスの友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」の質問では、県や市の肯定的回答の割合を下回っている。このことから、国語や学級活動の時間を中心に話し合いや自分の考えを発表する機会を設けることによって、協同の学びあいができる環境を作っていきたい。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	69.0	60.8	58.1
	書くこと	52.8	49.8	48.3
	読むこと	50.9	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.3	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	69.0	60.8	58.1
	書く能力	52.8	49.8	48.3
	読む能力	50.9	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	78.3	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

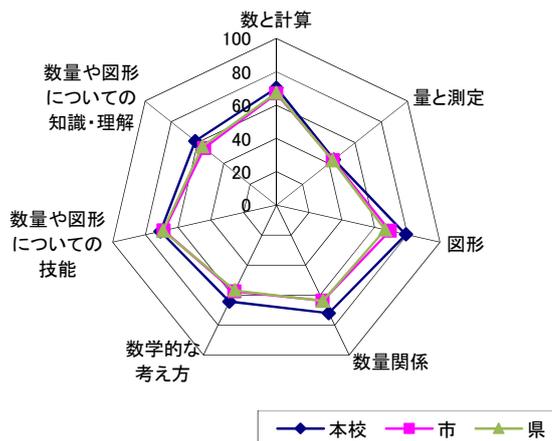
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する設問では、県の平均正答率を18.9ポイント上回った。</p> <p>○話し合いにおける考えの共通点や相違点を整理して話す設問では、県の平均正答率を10.4ポイント上回った。</p>	<p>・今後も引き続き、話し合い活動を通して、理由や根拠を意識して聞き取ったり、共通点や相違点を明確にしながら自分の考えを述べたりする活動を多く取り入れるようにする。</p>
書くこと	<p>○インタビューの結果を基に必要な内容を整理して書く設問では、県の平均正答率を7.6ポイント上回った。</p> <p>●資料(表)を基に説明する設問では県の平均正答率を1.4ポイント上回ったが、市の平均正答率を0.3ポイント下回った。</p>	<p>・目的意識をもって書く活動を授業の中で積極的に取り入れていく。</p> <p>・相手の意図していることを考えながら資料をしっかりと読み取る学習を国語だけでなく社会などの他教科でも取り入れていく。</p>
読むこと	<p>○物語を読み、叙述を基にして、特徴的な描写を捉える設問では、県の平均正答率を14ポイント、市の平均正答率を13ポイント上回った。</p> <p>○登場人物についての描写から心情を想像して読む設問では、県の平均正答率を7.3ポイント、市の平均正答率を8.7ポイント上回った。</p> <p>●文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する設問で県の平均正答率を4.1ポイント下回った。</p>	<p>・説明文では、例を参考にして答えを正確に導き出すことができるような活動を取り入れていく。字数を意識してまとめる活動も取り入れていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○漢字の読みの設問では、どの設問においても県の平均正答率を上回った。</p> <p>○慣用句の使い方の設問では、県の平均正答率を8.1ポイント上回った。</p> <p>●日常使われている簡単な単語の、ローマ字の読み方の設問では、県の平均正答率を5.9ポイント下回った。</p>	<p>・今後も国語の授業で漢字の読みや書き順を指導するとともに、ノートや作文などの文章の中で実際に漢字を使いながら定着を図っていくようにする。また、ローマ字の学習を家庭学習等で繰り返し積み重ねていくようにする。</p>

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.4	66.9	67.4
	量と測定	43.9	43.2	43.0
	図形	79.2	69.4	66.5
	数量関係	72.1	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	64.3	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	70.8	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	61.7	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

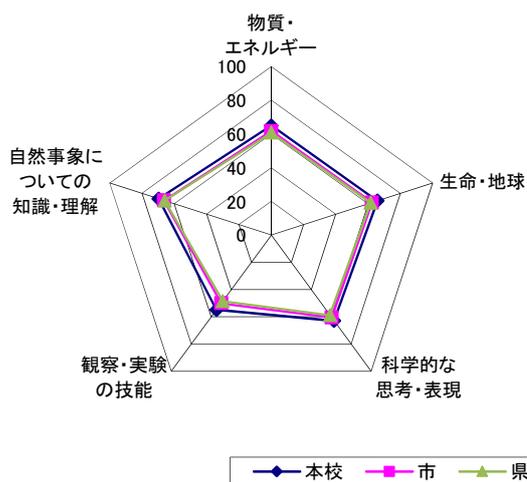
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○億と兆・がい数の表し方の問題では、県の平均を14ポイント上回った。</p> <p>○計算のきまり・変わり方調べの問題では、県の平均を18ポイント上回った。</p> <p>●帯分数一真分数の計算の問題では、県の平均を5ポイント下回った。</p>	<p>・今後、授業や朝の学習などで繰り返し計算問題を解き、分数の計算が確実にできるようにしていく。</p> <p>・少人数指導を有効に利用して、児童の定着度をこまめに見とって指導していく。</p>
量と測定	<p>○平面上にあるものの位置を表す問題では、県の平均を11ポイント上回った。</p> <p>●はがきのおよその面積を選ぶ問題では、県の平均を3ポイント下回った。</p>	<p>・単位と実際の物の量を結び付けて、実感をもって推測しながら理解できるようにする。</p>
図形	<p>○与えられた2辺の続きを書いて平行四辺形を完成させる問題では、県の平均を13ポイント上回った。</p> <p>○式と図に合う複合図形の面積を求める方法を説明する問題では、県の平均を3ポイント上回った。</p>	<p>・日常生活の中で見つけた立体や模型を使い、実際に作業をすることで、実感しながら理解を深められるようにする。</p>
数量関係	<p>○ブロックの並べ方とブロックの個数の関係を式で表す問題では、県の平均を22ポイント上回った。</p> <p>○二次元表の欄にあてはまる数を求める問題では、県の平均を9ポイント上回った。</p>	<p>・引き続き、データを整理して表やグラフに表す活動を普段から行うようにし、観点到着目して身の回りの事象について表やグラフを用いて考察することを楽しみながら行えるようにする。</p>

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.0	61.7	60.7
	生命・地球	65.7	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	63.0	60.6	58.9
	観察・実験の技能	54.9	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	69.7	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○水中から出てくる泡が「水蒸気」と分かる設問では、県の正答率を10.3ポイント上回った。</p> <p>●盛んに泡を出しながら沸き立つことを「沸騰」と分かる設問では、県の正答率を7.2ポイント下回った。</p>	<p>・基礎的な知識に関しては、多くの設問で県の平均を上回ることができたが、既習事項を身近な現象に当てはめて考え、正しく理解する機会を増やして、さらに確実な力にする必要がある。</p>
生命・地球	<p>●夏のころのオオカマキリの写真を見て、同時期のカエルのようなすを問う設問では、県の正答率を2.7ポイント下回った。</p> <p>○方位磁針の適切な使い方に関する設問では、県の正答率を13.4ポイント上回った。</p>	<p>・季節を様々な視点から確認するために、導入段階でその季節の様子を全体的に捉えさせておき、観察対象だけでなく、その周りの動植物のようすにも関心が向くようにする。</p>

宇都宮市立〇〇〇小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分は勉強がよくできるほうだと思う」の質問では65.5%が肯定的回答をしていて、県や市と比べて高い。「勉強をしていて楽しい面白いと思う」「家で、学校の授業の予習・復習をしている」「テストで間違えた問題について勉強をしている」の肯定的回答が市や県を大きく上回っていることから、日々の積み重ねが自信となって表れた結果と考えられる。また、「家の人と学習について話をしている」「家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的回答が県よりも高いことから、家族の言葉が励みとなっていることが読み取れる。

○「できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている」の質問では93.8%が肯定的回答をしていて、市よりも10ポイント以上高い。「勉強していて、「不思議だな」「なぜだろう」と感じることもある」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」の肯定的回答が高いことから、興味関心を持って主体的に取り組んでいると思われる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定的回答が市や県を下回っている。しかし、「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気を付けて書いている」の肯定的回答が前年度を大きく上回っていることから、引き続き指導していけば、結果に結びつくと思われる。いろいろな教科や場面で、自分の考えを書く時間を設け、経験を積ませていきたい。

●「授業でわからないことがあると、先生に聞くことができる」「学級活動の時間に、友達同士で話し合っただけで済ませるのではなく、先生に質問したいことがある」という質問では、肯定的回答の割合が市や県に比べて低い。この質問紙調査の時期がクラス替えをした直後であったためであると思われる。今後も何でも言える雰囲気づくりや、居がい感のもてる学級経営に努めていきたい。

宇都宮市立清原中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業において、めあて、まとめ、振り返りを確実に行うための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「めあて」「まとめ」「ふりかえり」などのカードを各教室の黒板に準備し、どの授業でも活用できるようにしている。 ・「板書見せ合いの日」を設定し、互いに見せ合い、参考にする機会を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生の「授業の中で目標が示されている」と回答した子が、昨年度より8.8ポイント上回った。 ・5年生の「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」と回答した子が、昨年度より8ポイント上回った。
自分の考えをもち、豊かに表現できる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中の話合いで、ペアやグループ、全体などの形態を工夫するとともに、発達段階に応じた話し方・聞き方のスキルを身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生の「グループの話合いに自分から進んで参加している」「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」では、昨年度より10ポイント近く上回った。しかし、4年生では下回っているの、今後も学校全体で取り組んでいく。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学年内で宿題の量や家庭学習の仕方をそろえる。自主学習の内容や方法を示し、よい実践のものをクラスに紹介する。 ・保護者が自主学習ノートを確認する機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の予習や復習をしている」「テストで間違えた問題について勉強している」と回答した子が、どちらの学年でも昨年度より大きく上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数や理科の問題で、正答率は市や県のものより上回っているものの、A-D層間の開きが大きいものがあった。	基礎・基本の確認と定着	<ul style="list-style-type: none"> ・今行っている単元の学習に必要な基礎的・基本的な知識・技能について、学年をさかのぼった内容についても再度確認し、定着を図る。